

公益財団法人 檜の芽会 御中

伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日	令和6年5月5日	
②法人・団体名	一般社団法人ライフキャリア教育ラボ（「ラキャボ！」）		
③所在地	〒545-0033 大阪市阿倍野区相生通2-10-6		
④責任者氏名	浅野京子	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	片山富美	(役職名等)	フリースクール責任者

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R05-014	⑦助成金額	49万円	⑧申請カテゴリー	c
⑨奨学活動名	「不登校・ひきこもりの心と体、まずは知ってもらって伴走する！～心をほぐすための講演会イベント、スタッフ勉強会の開催～」				
⑩主な実施場所	阿倍野区民センター大ホール、当法人事務所				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

- イベント開催のための事前勉強会・ワークショップ：7月～8月
- スタッフ人材育成・スキルアップのための勉強会：7月～3月
・スタッフに限定せず、広く当法人の活動に興味関心を持つ一般の方々に周知し、開催したことで、より多くの方に理解を深めてもらうきっかけとなった。
- 不登校・ひきこもりを理解するためのイベントを開催：9月
・不登校・ひきこもりの現状を多くの人に知ってもらい、フリースクールや相談事業の重要性を感じてもらうことができた。有識者による講演を盛り込むことで、当事者はもとより、より多くの人達に心理面や医療面での知識を深めてもらえた。また当フリースクールの生徒達が協力し合いながらイベントのための短編アニメ作成・アフレコ参加し、生徒達が前向きになれたことは大きな成果であった。特にイラストレーターや声優にこれまで以上に興味を持ち、将来の夢に希望を持つようになるなどキャリア形成につながった。1. 2. 3を通じて、生徒、スタッフの人材育成に大いにつながり、さらなる知識と理解を深める継続的な仕組みの構築につながった。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足
中学生等	6	20	120	
高校生等	4	5	20	
大学生等	10	6	60	
学習支援員等	28	11	308	
その他	123	3	369	イベント参加者
合計			877	

その他の定量的な数値（任意）

令和 5 年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：「不登校・ひきこもりの心と体、まずは知ってもらって伴走する！ ～心をほぐすための講演会イベント、スタッフ勉強会の開催～」

法人・団体名：一般社団法人ライフキャリア教育ラボ「ラキャボ！」

作成者：浅野京子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

<取り組んだ課題>

多くの不登校・ひきこもりの子どもがいるにもかかわらず、フリースクールや保護者相談の利用者が圧倒的に少ない。認知度を高め、より多くの人に不登校・ひきこもりについての理解を深めてもらい協力を得るとともに、当事者に将来の不安を和らげてもらうためのサポートを行うイベントを開催。

<実践の目的>

イベントを開催して、不登校・ひきこもりの現状を多くの人に知ってもらい、フリースクールや相談事業の重要性を感じてもらうとともに、当法人の認知度を高める。有識者による講演により、当事者はもとより、より多くの人達に心理面や医療面で必要な知識を深めてもらう。

<実施内容>

多くの人が集う会場において、有識者による講演会等のイベントを実施。音楽の演奏を交えながら、リラックスして参加してもらえる工夫を行い、同時にボランティア・学生の協力を得て輪が広がる取組みを行った。またスタッフ・協力者の勉強会を事前に行うとともに、さらなる知識と理解を深める継続的な仕組みの構築を進めた。

2. 実施した奨学活動の詳細

・活動内容の詳細・参加人数

不登校・ひきこもりに関する講演会イベントの開催<開催チラシ②、パンフレット③>

実施場所：阿倍野区民センター大ホール、参加者 123 人（小学生～大人）

実施日：不登校児が増える夏休み明け（9月2日土曜日、3時間）

講演：奥田達也氏、浅野隆司氏、小沢貴史氏、浅野京子、ボランティアスタッフの協力出演（5人）

音楽アンサンブル演奏（音楽と人権についての講演を交えながら）：松本城洲夫氏とアンサンブル・サビーナ（講師1人、演奏者5人）

スタッフ・ボランティア勉強会<開催チラシ①>

実施場所：当法人事務所（法人スタッフ3人＋参加者延べ19人、参加者計22人）

実施日：

7月29日、8月11日、各日4時間（参加者募集にて実施）

外部講師：川合由美子氏「交流分析」、杉岡幸代氏「シュタイナー教育」

9月25日①、10月23日②、11月21日③、12月19日④、1月23日⑤、2月20日⑥、3月19日⑦

各日1時間（スタッフのみにて実施）

内部講師：浅野京子①②③「自己肯定感・非認知能力の重要性」④⑤⑥⑦「人権・多様性について考える」

・イベント周知方法や協力いただいた関係者

大阪市教育委員会（後援）、阿倍野区役所（大阪市広報あべの 8 月号記事掲載、案内チラシ区役所内配架）、阿倍野区内小中学校（案内チラシ情報共有）、阿倍野区地域振興会・地域活動協議会（阿倍野区内地域掲示板にチラシ掲示）、阿倍野区 PTA 協議会（案内チラシ情報共有）、地域情報紙（あべのタウン新聞 8 月号、東住吉タウン新聞 9 月号記事掲載）、阿倍野区民センター（案内チラシ区役所内配架）、大阪市立生涯学習センター（案内チラシ区役所内配架）

・地域やボランティア活動との連携

当法人の所在地の大阪市阿倍野区役所との連携、区内小中学校との連携、地域振興会や地域活動協議会との連携、区 PTA 協議会との連携を図っている。また、大阪市で 2024 年 4 月開校の大阪市立心和中学校（多様な学びのために新設、主に不登校生徒を受け入れる）と当法人の今回の講演会開催にかかる情報共有なども行っている。

さらに大阪公立大学商学部の学生たちとの交流、阿倍野区にある大阪キリスト教短期大学の教員・学生、大阪市内通信制高校の教員、学生との交流なども行っている。また、今年から新たに発足した阿倍野区こどもの居場所活動グループ交流会に参加し、大阪市阿倍野区社会福祉協議会と連携した情報共有・活動を行っている。

・学習支援員について

書籍の活用や内部講師により独自でスタッフの勉強会を開催しているところであるが、外部専門家（交流分析：川合由美子氏、シュタイナー教育：杉岡幸代氏）にご協力いただき、どのような伴走・学習支援が効果的であるかを学び、学習支援員やボランティアサポーターのさらなるスキルアップを図り、サポート体制を構築している。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

・本活動から得られたもの

- ① 「大人が元気であることが子どもの元気につながる」と考えており、当法人では、不登校・ひきこもりの子ども達のサポートのほか、「すべての人の自分らしい生きがいつくり」のための企画・イベントを行っている。ワーク・ライフバランスの上手な実現のために他の人はどうしているのか、とにかく笑って明るく元気に過ごす『タネ』を探したい、と思っている大人のための交流会としてキャリアサロン「ワライバ！」を不定期に開催しており、交流会を通じてフリースクール・キャリアスクール事業の認知度を高め、子ども達を応援する元気な大人を一人でも多くして、サポーターを増やしていくための活動を日々行っている。そこで、今回の講演会イベントを周知し、舞台上で協力してくれる大人、舞台裏方で協力してくれる大人を募ったところ、喜んで参加したいと複数人から申し出があり、イベント開催に大きく寄与してもらえた。多くの人が子ども達の将来をサポートしたいと望んでいることが良くわかり、この輪を広げていくべきだと実感した。
- ② イベントで、当フリースクールを紹介するにあたり、生徒達が制作、アフレコに挑み、大学生が編集に携わり短編アニメを上映した。生徒同士はたまに会話があるものの、ほぼスタッフが投げかけたことに返事をするといったコミュニケーションの取り方であったが、今回の短編アニメ制作に関して「協力して何かを作り上げる」ということを体験することができた。大きな成果であった。

・反省点、課題

- ① 講演会の会場である阿倍野区民センターが希望する時期でなかなか空きがなかったため、当初小ホール（約 300 人定員）で予定していたが、大ホール（約 600 人定員）での開催となってしまった。会場費、使用設備費、舞台スタッフなど、大幅に予算オーバーとなり苦労した。チラシやパンフレットの原稿作成はスタッフで行い、パンフレットの折り作業を自分達でするなど節約できるところは工夫して乗り切ったが、今回は対策を講じたい。
- ② チラシ、パンフレットに後援「公益財団法人樫の芽会」様のお名前を入れさせていただき、講演会や勉強会の中で、「助成を受けたことで開催することができました」とお礼を述べさせていただいたところですが、今後は印刷物においても、「後援」表記に加え、「公益財団法人樫の芽会様の助成事業」と大きく明記させていただきたいと思います。当法人の決算を終え、やはり現在のところ、今回のような無料での講演会や勉強会を単独で開催する財源が当法人にはなく、しかしながら多くの人に知ってもらい輪を広げていくことが重要であることから、助成金を受けることができたことに非常に感謝しております。
- ③ 短編アニメ制作は、将来イラストレーターになりたいと考える子、声優に興味を持った子などが出てきて、子ども達のキャリア形成に役立ったと考える。しかしながら、必要な機材（パソコンや音響機器）は大学生スタッフが重い私物を持参してくれてくれたために実現できたこともあり、当法人でもイベントのために必要なものは準備したいと考える。
- ④ 講演会イベント、勉強会共に参加者からは好評であったが、その後のフリースクール生徒の増員に直接はつながらなかった。ニーズがないのであればフリースクールの生徒が増える必要はないが、不登校・ひきこもりが増加していることから、もっと認知度を高めていく必要があると実感した。しかしながら相談・生徒数自体は増えつつあるため、時間をかけて取り組んでいくことが必要である。
- ⑤ 講演会の内容は多くの人に理解を促すことに焦点を当てているので、悩んでおられる方の個々の事例に必ずしも合致するわけではないというところが難しく、どう伝えていくべきかが今後の課題である。

・今後への発展性

- ① 前掲の今年から新たに発足した阿倍野区こどもの居場所活動グループ交流会、大阪市阿倍野区社会福祉協議会と連携していくことから、今後さらに地域を巻き込んだ活動に発展させていくことができると考える。
- ② 生徒達がイベントのために集中して取り組めたことから、テーマを決めて、お互いの意見を出し合いながら、一つの作品を作り上げるということを継続することで、生徒達が前向きになれると考え、昨年体験していない今年の生徒達にも経験の機会を与え、今後のキャリア形成につなげていきたい。
- ③ 当フリースクールでは、子ども・保護者の意向を尊重しながら、非認知能力の向上、生きる力をつけるためのサポートを行っている。学校に戻ることを希望している子には自信をつけて復学できる支援を行っているが、少人数の生徒ながら既に数人の子ども達が復学を達成できている。長年不登校に苦しんでいた子がいたにもかかわらず、これには学校現場の教員の方々も驚かされている。今後もさらなるニーズに応えていくとともに、広くこの現状を周知することで社会貢献に寄与できると考える。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

不登校・ひきこもりというシリアスなテーマであるがゆえに、講話を聴くだけの講演会ではなく、演者・観客ともに大切なことを楽しみながら考えることができる内容にしたいと考え、第2部を芝居仕立ての講演会という大胆な発想で実施した。生徒達の短編アニメもそうであるが、第2部も完全オリジナルにし、作・演出共に法人代表の浅野が手掛けた。第2部の芝居に関しては、出演者が公務員・会社員など仕事をしているメンバーのため稽古の回数があり取れず苦労したところであるが、それぞれが自分たちのエピソードを出し合い、短時間で台詞を覚え、発声練習に励み、一丸となって当日を迎えた。自発的な取り組み、また集中力が発揮できたため、かなり完成度の高い仕上がりととなった。将来の夢を語り合った中学生達が40年後に再会して、夢を実現した者、挫折したが今を懸命に生きている者など様々である。が、前向きに生きていれば、何とかなる、というストーリーを軸に展開した。20代の出演者もいたが、30代から50代のキャストがセーラー服を着て舞台上に飛び出したことは、観客に大いにウケた。また、ストーリーテラーとして大阪公立大学の小沢教授が自ら用務員の格好で、箒を持ちながら登壇して、熱い思いを語ったシーン、最後にはミュージカル仕立てで、オフィシャル髭男爵の前向きな曲に合わせて全員でダンスを披露して、幕を閉じるという、これまでにない画期的な講演会となった。終了後、観客に感想を聞いたところ、「こんな講演会は初めて」「来てよかった」「あつという間に時間が過ぎた」などの声が多く寄せられた。終了後アンケートの平均値は5点満点の「4.6」点であった。本当に開催して良かったと感じている。もっと多くの人に観てもらいたい、参加してもらいたいとの一念である。各自治体教育関係者からオファーが来るのではないかと案じているが、それほどの知名度は今のところない。全国行脚の準備はできているのであるが。

この度は助成いただき、本当にありがとうございました。継続してまいりたいと、次年度に向け、新たな台本を書き始めようとしているところです。どうぞよろしく願いいたします。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリにて「S」が付されている団体）

今回監修のみならず、出演いただいた大阪公立大学の小沢教授は、マーケティングの専門家であり、市場動向に詳しい。社会人として働き出すと若者は様々な厳しさに直面するが、それが個人の成長にもつながる。不登校・ひきこもりという社会課題にどのように向き合っていくのか、社会全体で考えていく一助として、今回の主旨のようなイベントは必須である、とコメントされている。

超少子高齢化の日本では、次世代の労働の担い手として活躍すべき若者が、圧倒的に少ない。にもかかわらず、さらに引きこもりから社会に出ることを拒む若者が増えれば、大きな経済的打撃を受けることになる。不登校が悪いわけではない。しかしながら、親の庇護から離れて自分で自立することは将来のために必要である。「生きる力」が求められている。



Lacabo 「ラキャボ！」 勉強会のお知らせ

専門家を招いて「自分らしくあるために！」をテーマに勉強会を開催します。ご興味のある方はぜひ参加してください。グローバルな教育法、人間性心療学に触れる絶好の機会です。（無料）

2023年7月29日（土）
①13時～15時「シュタイナー教育Ⅰ」
②15時～17時「交流分析Ⅰ」

2023年8月11日（金・夜）
③13時～15時「シュタイナー教育Ⅱ」
④15時～17時「交流分析Ⅱ」

★お茶を飲みながらリラックスしたわりやすいワークショップ形式で開催しますのでお気軽にご参加ください。
講師：シュタイナー教育（杉岡幸代氏、大阪キリスト教短期大学教授）
交流分析（川合由美子氏、日本交流協会理事長）
場所：一般社団法人ライフキャリア教育ラボ 大阪市阿倍野区相生通2-10-6（オンラインも予定）
申込：2023年7月25日までにメールでinfo@lacabo.jpまで希望番号①～④、氏名、連絡先、メールアドレス記載の上、お申込みください。（1は基本、2は応用のイメージです。1を聴かなくても2だけ参加していただくこともできます。）
主催：一般社団法人ライフキャリア教育ラボ 後援：公益財団法人慶の芽会

スタッフ・ボランティア勉強会
<写真・開催チラシ①>

2023/9/2(土)

不登校・ひきこもりの心と体を知る講演会

どのように寄り添えばいいの？フリースクールって？

先ずは知ること！伴走すること！

焦らず、心をほぐすこと、「自己肯定感」を大切に
不登校・ひきこもりの子どもやその家族は積極的に外に出てこない。
しかしながら多くの不安を抱えて悩んでいます。より多くの方にこの現状を知っていただき、共に考え、一歩踏み出すための情報アップデートイベントです。フリースクール「ラキャボ！」でのキャリア教育的実践内容と、有識者による心理学・医療面からのお話をお聴きいただき、今一度「自分らしさ」「生きる力」を大切にすることを実感していただける時間をお過ごしください。

講演と癒しの音楽演奏を楽しみに、ぜひご来場ください！

場所：阿倍野区民センター大ホール（豊香駅 大阪メトロ阿倍野駅）
日時：2023年9月2日（土）14時～17時 詳細はHPで
入場無料、どなたでもご参加ください


講師：奥田達也氏（東海学園大学名誉教授・社会心理学）
浅野隆昌氏（医療法人五常会浅野クリニック理事長）
松本城洲夫氏とアンサンブルサビーナ＜講演と演奏＞
コーディネーター：小沢貴史（大阪公立大学大学院経営学専攻教授）
浅野京子（一般社団法人ライフキャリア教育ラボ代表）

主催 一般社団法人 ライフキャリア教育ラボ
後援 大阪市教育委員会 公益財団法人 榎の芽会




2023年9月2日(土) 阿倍野区民センター大ホール

不登校・ひきこもりって誰にでも起こりうるってことを理解する ～真面目で面白い今までにない講演会～ 「自分らしく・楽しく・ポジティブに！」



- 1 不登校・ひきこもりの現状とフリースクール(14:00～)
フリースクール「ラキャボ！」の生徒達が制作した短編アニメ「2023年ラキャボン、マカロンの旅」も上映
- 2 社会心理学、医学のスペシャリストと、前向きな大人たちの楽しいセッション。芝居仕立ての講演会(14:30～)
誰にだって子どもの時代はあるし、みんな悩んで大人になるもの。心の癖と、思春期の体のことを知って、大人になること、歳を重ねることは素晴らしい！と、すべての世代が自分事として振り返って体感できます。毎日を気楽に、元気に！
- 3 音楽と自立(16:00～)
音楽の歴史の中で、いつも背景には「自立」があった。アンサンブルオーケストラの演奏とお話を聴きながら、優雅で穏やかな時間をお過ごしください。



一般社団法人 ライフキャリア教育ラボ

講演会イベントの開催

上段
<開催チラシ②>

中段
<大阪市阿倍野区民センター外観、大ホール客席>

下段
<舞台の一場面の写真>



第1部 14:00~

不登校・ひきこもりの現状とフリースクール

こあいさつ

未曾有のパンデミックや災害など、社会情勢が不安定な中で、子どもから大人・シニアまで、すべての人の生きがいにつながる事業をめざして、2022年春に当法人を設立しました。「自分らしい、なりたい生き方を見つけるために」をテーマに、自分探しのキャリア教育を展開しています。中でも不登校・ひきこもりは大きな社会問題であり、社会全体で考え取り組んでいかなければならない課題ですが、現状をよく知らない方も多く、認知度を上げていくことが重要です。

本日このように大阪市教育委員会、公益財団法人樫の芽会の後援、また多くの方々から主旨にご賛同いただき、本イベントを開催することができましたことに深く感謝しております。人生ケセラセラ、どうぞ明日からも前向きに一日一日を大切にしていこうというきっかけになれば幸いです。お越しいただいた皆さま、本日はどうぞ有意義なひと時をお過ごしください。

一般社団法人ライフキャリア教育ラボ 代表 浅野京子



短編アニメ

「2023 ラキャボン、マカロンの旅」

フリースクール「ラキャボ！」の生徒・スタッフによる完全オリジナル作品(作:浅野京子、原画:そら、編集:ゆか)で、マスコットキャラクターのラキちゃんやラキャボンが協力して問題を解決しながら旅をするというお話です。アフレコも最初は緊張しましたが、みんなで楽しく録音することができました。作品が出来上がった時の達成感と充実感、普段味わうことができない素敵な思い出となりました。

アフレコ:浅野京子、青井海、ar、ゆか、そら、ふい



ラキャボ！について

自分らしく生きていくためには自己肯定感が重要です。不登校やひきこもりになる子の多くは、その土台作りが弱い状況にあります。そこで、将来なりたい自分に近づけるためのサポートとして、昨年フリースクール・キャリアスクール「ラキャボ！」の運営を開始しました。不登校の子どもの状況は様々で、日々、感情や体調が変化します。保護者の皆さんからのご相談に丁寧に対応し、関わるスタッフも寄り添い悩みながら、ともに学び、苦慮しながらも成長しつづけます。まったく心を開かなかった子が、少しずつ自分の話を語り出し、笑顔になっていくことが、何よりの喜びです。



ラキャボ！HPはこちら▲

第2部 14:30~

芝居仕立ての講演「不登校・ひきこもりの心と体。まずは知ること、伴走すること」

ストーリー

とある女子中学校での2学期最初の土曜日授業。講師の先生を招いての講話「思春期の心と体について」では専門家のお話を聴きます。その前に、夏休みの課題「私の将来の夢」について生徒達が発表します。観客の皆さんも中学生のあの頃に戻って、小さなお子さんは中学生になったつもりで、劇中の空間に迷い込んでください。…時は流れ、40年後に5人は同窓会で再会します。50代になったそれぞれが人生を振り返り、苦労もあつけれど、それが人生で、生きていれば色んなことがある。くよくよ悩んでいって仕方がない、年を取るのには楽しいこと、明日からも頑張ろう！と乾杯をして幕を閉じます。ネガティブにとらえがちなテーマを、前向きな大人の代表として素人キャスト陣が体当たりでコミカルに演じます。老若男女へのエールとともに、自分達へのエールとして。さあ、次は皆さんもラキャボ一隊の一員としてご登場ください！お待ちしております。

【講師紹介】

奥田達也氏 (オウダ タツヤ)

東海学園大学名誉教授 社会心理学
プロフィール:大阪生まれ。1990年 名古屋大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程単位取得満期退学。主な研究領域として、集団間相互作用、俗信に関する基礎的研究などがある。著書は、『ゲーム・シミュレーションを用いた目標達成行動における社会的技能の効果』(単著、2003)、『フロンティア人間関係の心理学』(共著、2004)等がある。



浅野隆司氏 (アサノ タカシ)

医療法人五常会浅野クリニック理事長(医師)
プロフィール:大阪市生まれ。父の代から長年にわたり、一般内科(糖尿病、脂質異常症、肥満)、循環器科、呼吸器科、消化器内科、アレルギー科、産婦人科、小児科、一般外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、心療内科、放射線科、リハビリテーション科などの家庭医として医療全般にわたっての診療を行っている。
コメント:「スタッフとともに患者さまの心と身体の両面からサポートを行い、ひとりひとりの視点に合った治療と医療に必要な生活療養指導を行うよう心がけております。」



小沢貴史氏 (オザワ タカシ)

大阪公立大学 大学院経営学研究所・商学部 教授
プロフィール:兵庫県 姫路市 生まれ。
2008年 神戸大学 大学院経営学研究所 博士後期課程修了。
例)JMRサービス、大阪府立産業開発研究所、早稲田大学、鳥取大学を経て、現職。専門は、事業戦略論、マーケティング戦略論。主な著書に「市場再活性化のメカニズム」(単著、2021年)や、『公共経営序論』(共著、近刊)等がある。



キャスト:青井海、浅野京子、倉田ゆか、後藤田多津子、狭間優子、矢沢郁子

第3部 16:00~ 個人の自由自立・尊厳と音楽

松本 城洲夫氏 (マツモト シズオ)

長年にわたり自治体行政で人権啓発、人権文化などの事業に取り組み、54歳で中途退職して、(有)サビーナネットを設立。「基本的人権」の実際の社会での大切さや、自治体職員が地域社会で担っている重要な役割についてなど、講演活動を行っている。また、イタリアの音楽家との協働による「友情のサビーナ・オーケストラ」、「音楽とヒューマン・ライツ」等の活動も注目されている。イタリア生活文化交流協会・会長、大阪府北部コミュニティ・カレッジ音楽科講師、元龍谷大学人権論講師。



アンサンブル・サビーナ

「友情のサビーナ・オーケストラ」の中心メンバーで編成している管弦楽アンサンブル。コンサートごとに様々な人数のアンサンブルを組織して演奏に取り組む。「アンサンブルを小さなコミュニティと考え、一人ひとりの個人の自立を尊重しあい、対等な友人同士としての互助の関係を土台とした音楽づくり」をめざして演奏活動を行っている。「友情のサビーナ・オーケストラ」で交流しているイタリアの音楽家等とのコラボレーションによるコンサートや、定期的なコンサートとして京都市、豊中市で「まちづくりサビーナ・コンサート」を開催し、同様の趣旨で「サビーナ音楽教室」も運営している。



【個人の自由自立・尊厳とヨーロッパ音楽】

- ヴァイオリン協奏曲『四季』より「夏」(バロック音楽/ヴィヴァルディ作曲)
- オペラフィガロの結婚より序曲(啓蒙時代/モーツァルト作曲)
- オペラカルメンより組曲/近代社会前夜/ビゼー作曲)
- 【スピリチュアル(黒人霊歌)から発展したアメリカ音楽】
- 深い河(スピリチュアル/黒人霊歌)
- スワニー河(邦題『故郷の人々』/フォスター作曲)
- We Shall Over Come(邦題『勝利を我らに』/ゴスペルソング・プロテストソング)

ヴァイオリン 谷川千尋(たがわ ちひろ) ヴァイオリン 中村有貴(なかむら ゆき)
ヴィオラ 中川薫(なかがわ かおる) チェロ 瀬崎康江(せとう やすえ)
チェロ 谷川千佳(たがわ ちか)

We Shall Overcome.(歌詞)

1. We shall overcome, We shall overcome, We shall overcome someday;
Oh, deep in my heart, I do believe, We shall overcome someday.
2. We'll walk hand in hand, We'll walk hand in hand,
We'll walk hand in hand someday; Oh, deep in my heart,
I do believe, We shall overcome someday.
3. (1番繰り返し)



2023/9/2 (土)
14:00~17:00

不登校・ひきこもりの心と体を知る講演会

阿倍野区民センター大ホール

主催:一般社団法人ライフキャリア教育ラボ
後援:大阪市教育委員会/公益財団法人樫の芽会